

7月23日(土) 19時～
開会式
奉納浮立(前夜祭)

7月24日(日) 10時～
山挽祇園(本祭)

小城山挽祇園

700年祭



江戸時代の
祭りの様子

「小城祇園絵図」
©国文学研究資料館所蔵

今年で700年を迎える小城山挽祇園祭。昔から受け継がれてきた伝統の祭りの歴史を振り返り、今に伝えます。節目となる今年はさまざまなイベントも企画され、一層盛り上がりを見せています。それぞれの意気込みを取材しました。

700年もの間小城の人々によって受け継がれてきた伝統の祭り

小城山挽祇園祭は鎌倉時代末期(1316年)に現在の千葉県である下総国から移り住み、小城町の基礎をつくった千葉胤貞ちのぼねが祇園社(現在の須賀神社)を建立し、軍事訓練として山挽神事を行ったのが始まりといわれています。



千葉胤貞像

胤貞の頃の山挽の様子は分かりませんが、江戸時代は高さ15メートル程と大きく、芦刈からでもその姿が見えたといえます。また、山が挽かれる道路の両面には棧敷さじきが設けられ、見物人のにぎわったそうです。

「見事(人形) みるには博多の祇園、人間(人出) みるには小城の祇園」という評判がたつたほどです。

祭りは江戸時代末期に倭約令で一度禁止され、祇園会ぎおんえの神事のみが行われることになりましたが、明治時代に存続を願う神社の氏子たちや町民たちによって現在の山挽きの形に再興されました。穀物の豊作と伝染病の退散を願い、地域の安全を祈る祭りとして今日まで続いています。



昭和40年代の祭りの様子

祇園ミ二知識 「うちわ祇園」といわれる由来

江戸時代、祇園祭の際に藩主は祝儀としてうちわを大殿様(藩主の父)に献上するのが慣例でした。このことから、うちわ祇園といわれています。



須賀神社



熱い祭りがまちを賑わす

祭りは前夜祭と本祭の2日間を通して行われ、前夜祭に横町が浮立を奉納することで始まります。裃かみしもに身を包んだ8人の大人がお謡うたいを奉納。その後、鉦かねを叩き、踊る子ども30人とちやうちん持ちの大人50人の大行列で、各町の山に浮立を奉納して回ります。

浮立が奉納されないと山が挽けないため、前夜祭に雨が降った年は、本祭の朝に奉納をした

知識二園祇

山の上に子どもを乗せると健康に育つといわれています。



こともありました。

本祭は下町交差点に上・中・下町の勇ましい山が並び、須賀神社をめぐって朝から出陣。

上・中・下町の通りを練り歩きます。その中でも、下町の山鉦やまほこしは、昔の形を受け継ぎ、くぎを使わず、木組を行い、市内50地区から奉納された縄や蔓つるで丁寧に部材を縛って組み立てます。山に飾る人形は各町が年ごとにテーマを決め、手作りしています。

子どもたちが奏はやしでるお囃子はやしに合わせて、1トンもある山は勢いよく進んでいきます。暑気払いに水をかけたり、かけ声をかけたり、祭りをみんなで盛り上げます。

知識二園祇

【クイナワ】

近隣地区から下町に奉納され、山鉦の組み立て部材や挽き綱に結わえて使用した縄。

祭りの後は、無病息災を願って戸口に掲げられます。



屋頃には須賀神社の広場に引き込み、山が並ぶと神事が行われ、上り山が終わります。3台の山が並ぶ姿は圧巻です。

その後、夕方から下り山が行われ、それぞれの小屋へと戻り、熱い祭りは幕を閉じます。祭りに携わった大人も子どもも、絆が深まり、来年の祭りにも共に盛り上げようと、繋がっていきます。

地区の祭りから 小城の祭りへ

祭りは住民のコミュニケーションの場です。祭りを機に近隣との友好が深まります。また、住民でなくても一緒に山を挽いてくださった人は仲間です。多くの人の協力を得て、祭りができています。

祭りの主役は子どもたちです。山が進むか止まるかは子どもたちの音頭で決まります。重い山を挽く大人たちを大きな声で力強い太鼓で励ましていきます。私が子どもの頃は道の両側が見物人で溢れて、山を動かすのも一苦労でした。

今回の700年祭を迎えるにあたり、地区の人たちだけでなく、市内全体の皆さんからの応援を受けて、士気も高まっています。今回を起点として昔の賑わい、活気を取り戻したいですね。



とし あき
堤 敏昭

小城祇園山鉦保存会会長

700年を担う男たち

地区をまとめる区長たちに小城山挽祇園祭に対する意気込みを伺いました。

横町

くろき たかのぶ
黒木尊信 区長

歴史のある祭りの700年という区切りの年に区長をさせていただき、身が引き締まります。やるからには、積極的に参加して、盛り上げていきます。

中町

みず たせいご
水田誠悟 区長

天気に恵まれ、けが・事故がなく、無事に奉納できることが一番です。

今年のテーマは「真田丸」。
ぜひ、家族総出で山挽に参加していただきたいですね。



上町

そえじまみき お
副島幹生 区長

祭りは地域の皆さんのいろんな協力があってできています。こだわりの山は、材料なども改良しながら作ってきました。上町の力を結集して、作った人形をぜひご覧ください。



下町

むらやまよしふみ
村山好文 区長

節目の祭りですから、絶対成功させなければ！と、先輩方も気合い十分です。市内50地区の奉納のおかげで作ることができますので、ぜひ、完成した姿を見てもらい、祭りを賑わせたいです。



団結がまちの活力へ

また、核家族化などで地域との交流が減った今こそ、人々が団結がする祭りが必要です。団結することが、まちの活力へとつながります。

700年も続く祭りは全国でも数少ないと思います。だからこそ、今回の祭りを通して、先人たちが受け継いで来られた歴史や伝統を後世に伝えていくと共に、新しい力を育てる契機にしたいと考えています。

いよいよ小城山挽祇園700年祭の準備も大詰めとなり、さまざまな分野の人が祭りを盛り上げようと企画しています。



小城山挽祇園700年祭実行委員会会長 村岡 安廣



700年祭だけの特別な2日間

7月23日 土 前夜祭

◆ステージイベント (19時～21時)

場所：祇園広場ステージ

内容：「知覧ねぶた」披露、
小城太鼓、三日月龍王
浮立保存会など



知覧ねぶた

◆横町による浮立 (19時30分～)

7月24日 日 本祭

出店も
できるよ

- ◆挽山 上り 10時～ (下町交差点スタート)
- 下り 17時～ (須賀神社スタート)

歩行者天国

(10時～20時)

- ◆シャンシャン祭り
- ◆よさこい
- ◆道行 おどり隊
総踊り
- ◆芦刈飾り船



シャンシャン祭り



道行 おどり隊 総踊り



芦刈飾り船

よさこいで
全国的に活躍している
須賀IZANAI連も
やってくる!

ゆめぷらっと小城

◆写真展を開催!

過去の祇園祭の様子や、1月に
公演した「永遠の月星」の写真
展を開催。《7月19日(火)～31日(日)》



©東島朋毅

※駐車場が少ないため、公共交通機関の利用をお願いします。

問 小城山挽祇園700年祭実行委員会
(小城商工会議所内) ☎73・4111

山挽参加者募集

挽きたい人は24日の朝8時頃に
各町の山小屋へお越しください。
※法被の貸与あり



福引もあります

祇園広場
ステージ

上町山小屋

中町広場
ステージ

中町交差点

上り
下り

下町交差点

小柳酒造

- ◆天山アートフェスタ開催!
- ◆ビアガーデン

ステージイベント

- ◆祇園広場ステージ (須賀神社駐車場)
- ◆中町広場ステージ (小柳酒造向かい)
市内の文化連盟団体や地元アーティスト
などが祭りを盛り上げます!

市内の
イベント
結集!

小城山挽祇園700年祭記念シンポジウム

700年の時空を
翔ける情熱!

入場無料

日時 7月2日(土)

開場13時 開演13時30分

会場 ゆめぷらっと小城 天山ホール

- ◆基調講演「鍋島直茂と小城」
講師 小城郷土史研究会会長 右松要輔さん
- ◆パネルディスカッション